

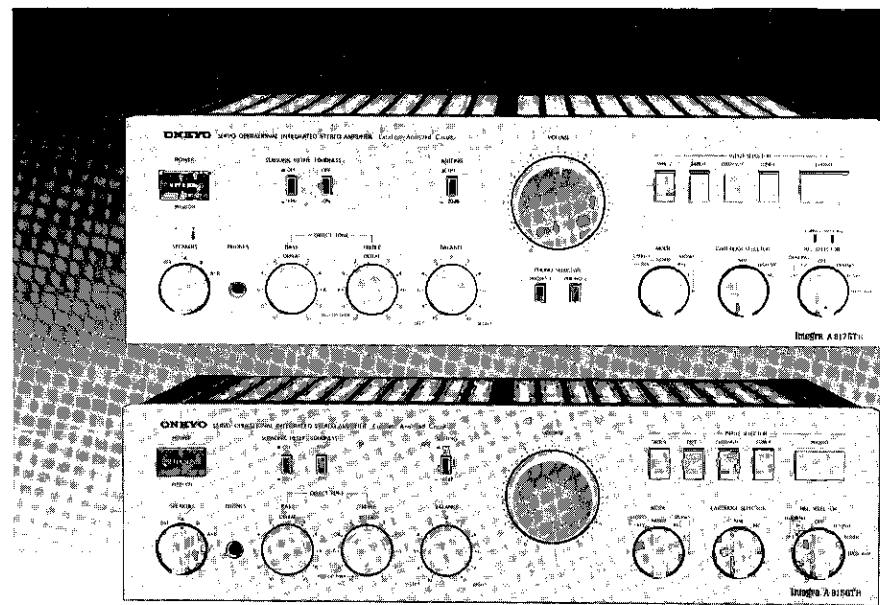
ONKYO

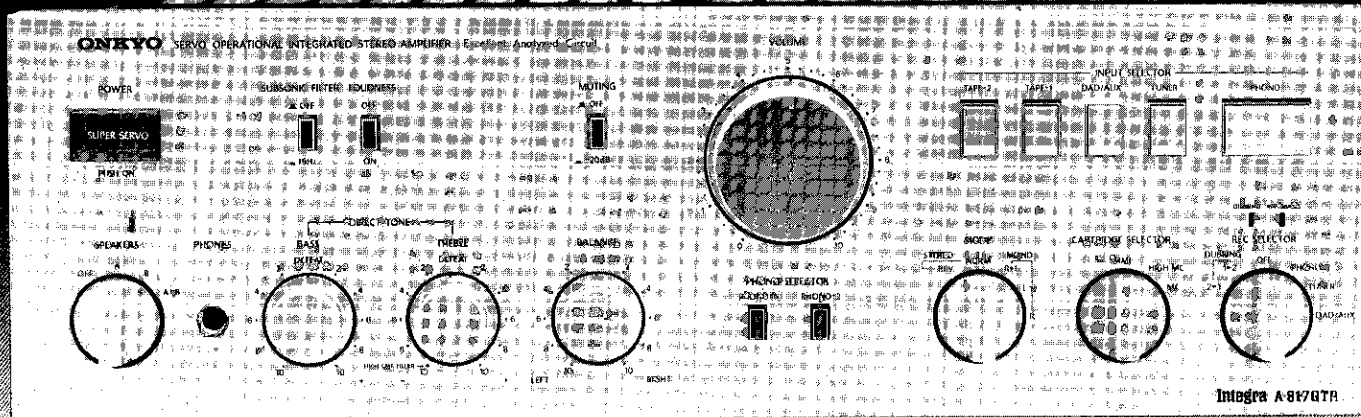
スーパーサーボインテグラル方式・ステレオアンプ

**Integra A-817GTR**

**Integra A-815GTR**

**取扱説明書**





このたびは、オンキョープリメインアンプをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

このアンプは、スーパーサーボ回路の究極とも言えるスーパーサーボ・インテグラル回路に加え音のエネルギー感を根本的に変え、従来にないパワフルな音を再生するデルタ・ターボ電源を採用した新しいプリメインアンプです。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱いにより末長くご愛用いただくようお願い申し上げます。また、お読みになったあとは、保証書、オンキョーサービス網一覧とともに必ず保存し、万一ご使用中わからないことや不具合が生じたときにお役立てください。

*Artistry in sound* **ONKYO**

## 目次

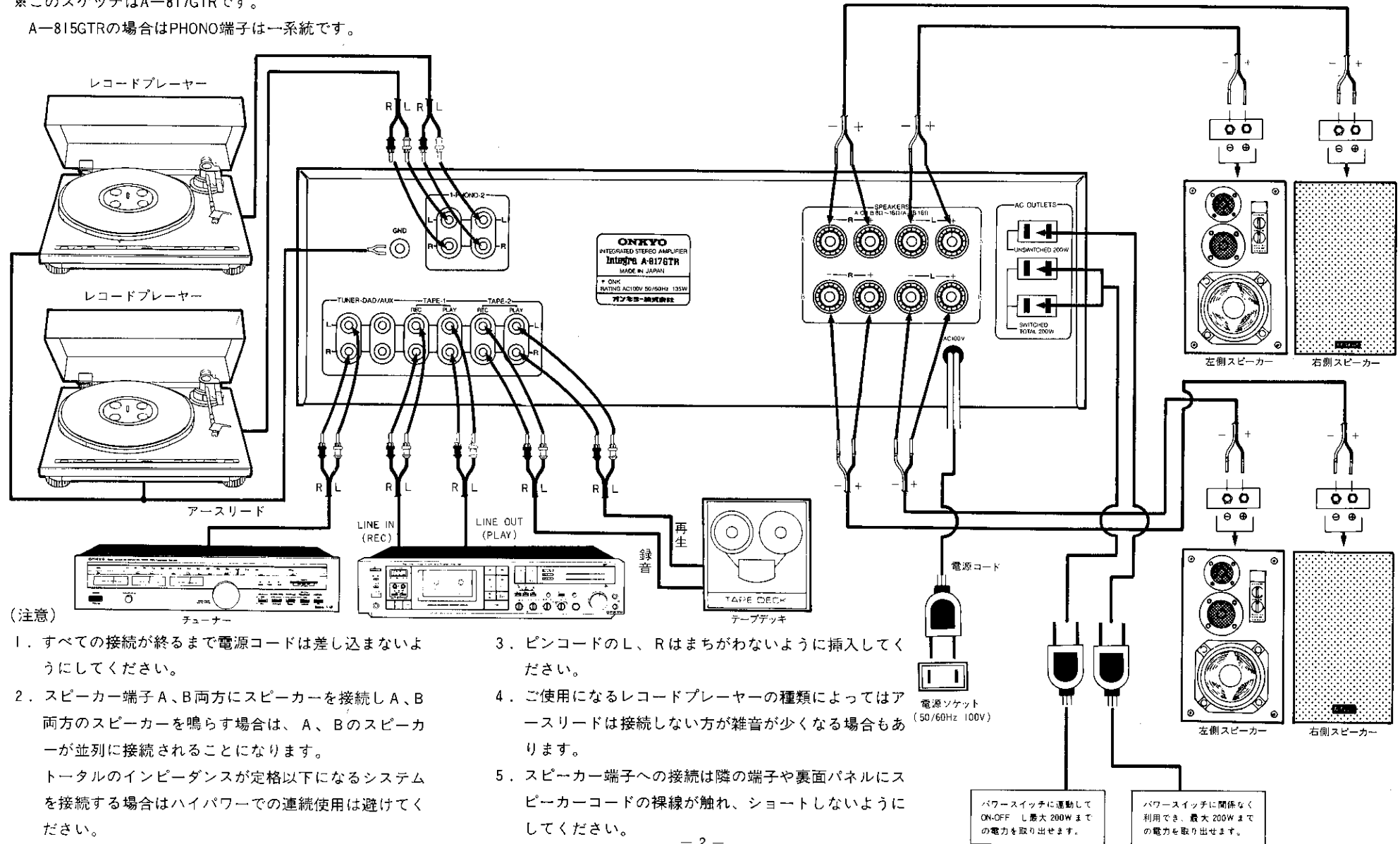
裏面接続図	2
前面各部の名称と働き	3・4
操作のしかた	5
定 格	6

この取扱説明書はスーパーサーボ・インテグラル方式ステレオアンプINTEGRA A-817GTR, A-815GTR共通です。A-815GTRをお求めの場合はA-817GTRに比べて1部のスイッチが異なります。

# 裏面接続図

※このスケッチはA-817GTRです。

A-815GTRの場合はPHONO端子は一系統です。



(注意)

1. すべての接続が終わるまで電源コードは差し込まないようにしてください。
2. スピーカー端子 A、B 両方にスピーカーを接続し A、B 両方のスピーカーを鳴らす場合は、A、B のスピーカーが並列に接続されることになります。  
トータルのインピーダンスが定格以下になるシステムを接続する場合はハイパワーでの連続使用は避けてください。

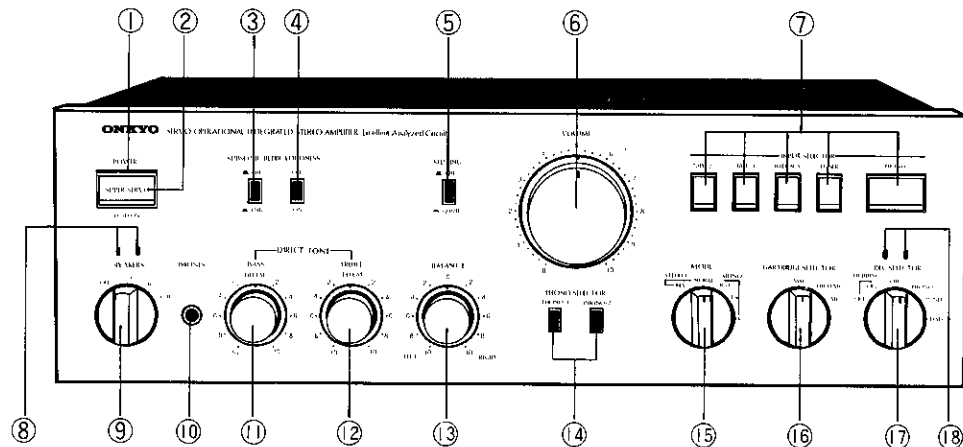
3. ピンコードの L、R はまちがわないように挿入してください。
4. ご使用になるレコードプレーヤーの種類によってはアースリードは接続しない方が雑音が少なくなる場合があります。
5. スピーカー端子への接続は隣の端子や裏面パネルにスピーカーコードの裸線が触れ、ショートしないようにしてください。

# 前面各部の名称と働き

スケッチはA-817GTRです。

A-815GTRの場合は、フォノ切替スイッチ⑭、スピーカー

表示ランプ⑧、録音表示ランプ⑩はありません。



## ①パワーランプ

電源が入ると点灯します。

## ②パワーボタン

押すと電源が入りパワーランプが点灯します。

しばらくしてスーパーサーボ回路が正常に働きはじめればこのボタンがグリーンに点灯します。

電源を入れてもこのボタンが点灯しない間はトランジェントキラータイムで音は出ません。

## ③サブソニックフィルターボタン

レコードのソリやモーターゴロなどによる非常に低い周波数をカットする場合にこのボタンを使ってください。

押して 15Hz にすると、15Hz 以下の周波数がカットされます。

## ④ラウドネスボタン

耳の聴感上の特性を補正するスイッチです。夜など、ごく小さい音で聴く場合に押し、ON [オン] の位置にしますと聴きやすい音になります。

普通の音量や大きい音で聴く場合は OFF [オフ] の位置にした方が自然な音を得られます。

## ⑤ミュートボタン

このボタンを押して -20dB の位置にすると出力が弱くなります。針先をレコードにのせるときの不快なクリック音の防止や一時的に音量を下げる時に使用してください。

## ⑥ボリュームツマミ

ツマミの位置により出力電圧が変わります。このツマミは音量ブースト特性、同時変化方式を採用しています。

## 音量ブースト特性、同時変化方式について

大きな音で聴く場合、高音や低音をブーストする必要がないことから、本機ではある程度以上音量を上げるに従って高音や低音のブースト量がだんだん少なくなるように設計されています。

すなわち、BASS [バス] ⑪やTREBLE [トレブル] ⑫を中央「DEFEAT」の位置より右にまわし、低音および高音をブーストした状態でボリュームツマミ⑥を目盛「5」(12時の位置)より右にまわし、音量が増すに従い、だんだんブーストカーブがフラットになるように変化し、ボリュームツマミ⑥を右いっぱいにもわすと全くフラットな周波数特性となります。ただし、ボリューム⑥が目盛「5」より左の位置にある場合はブーストカーブが変化することはありません。またBASS [バス] ⑪やTREBLE [トレブル] ⑫を中央「DEFEAT」の位置より左にまわし、ローカット、ハイカット特性の場合はボリュームツマミ⑥の位置に関係なく特性が変化します。

## ⑦インプットセレクターボタン

TAPE-1 } ..テープデッキを演奏するときにこのボタン  
TAPE-2 } を押してください。TAPE-1 を押せば裏面  
TAPE-1 に接続したデッキを演奏することができ、TAPE-2 を押せばTAPE-2 に接続したデッキを演奏することができます。

DAD/AUX.....裏面DAD/AUX端子に接続したデジタルオーディオディスクプレーヤーやテレビチューナー、テープデッキなどを演奏するときにこのボタンを押してください。

TUNER…………裏面TUNER端子に接続したチューナーを演奏(チューナー)するときこのボタンを押します。

PHONO…………レコードを演奏するときこのボタンを押(フォノ)します。

### ⑧スピーカー表示ランプ (A-817GTR)

### ⑨スピーカースイッチ

裏面スピーカー端子の出力切換です。A(B)の位置ではスピーカーA(B)に接続されたスピーカーからのみ音が、A+Bの位置にすればA、B両方のスピーカーから音が出ます。OFF〔オフ〕の位置はスピーカーからは音を出さずヘッドホンのみ聴くことができます。

### ⑩ヘッドホンジャック

ヘッドホンのプラグをこのジャックに差し込むとヘッドホンから音が出てきます。ヘッドホンだけの音を聴く場合はSPEAKERS〔スピーカー〕スイッチ⑨をOFF〔オフ〕の位置にしてください。

### ⑪バスツマミ

中央「DEFEAT〔ディフィート〕」の位置より右にまわせば低音が強調され、左にまわすと減衰します。お聴きになる部屋の状況やお好みによって加減してください。

### ⑫トレブルツマミ

中央「DEFEAT〔ディフィート〕」の位置より右にまわすと高音が強調され、左にまわすと減衰されます。お好みによって加減してください。また、左いっぱいになまし「10」の位置になるとハイカットフィルターの特性となりますのでスクラッチノイズ、ヒスノイズその他高域雑音を取り除きたい場合にこの位置にしてください。

### ⑬バランスツマミ

中央「0」の位置より右にまわすと右に、左にまわすと左に音像が移動します。中央にすれば右左の出力が同じになります。

### ⑭フォノ切換ボタン (A-817GTR)

裏面PHONO-1端子に接続したプレーヤーを演奏するとき、PHONO-1を押し、PHONO-2端子に接続したプレーヤーを演奏するときにはPHONO-2を押ししてください。

### ⑮モード切換スイッチ

REV…………右チャンネルと左チャンネルの信号が逆(リバース)になります。

NORM…………通常ステレオの使用ポジションです。  
(ノーマル)

R+L…………左右チャンネルの入力信号が合成されて出力端子のL、Rともに合成された信号が出ます。

モノラル再生や左右のバランスをとるときに使います。

L,R…………Lにすれば左チャンネルの入力信号が、Rにすれば右チャンネルの入力信号がL、R両方の出力端子から出ます。

### ⑯カートリッジ切換スイッチ

使用するカートリッジによってこのスイッチを切換えてください。音量を上げたままで切り換えますと大きな音が出る場合があります。切換える場合はボリュームツマミ⑥を左に廻し音量を小さくして行ってください。

MM…………MM型カートリッジを使用している場合はこの位置に合わせてください。

HIGH MC…………MCカートリッジでもMM型カートリッジ(A-817GTR)と同程度の出力のものがあります。このよ

うなカートリッジを使う場合はこの位置にしてください。

MC…………MC型カートリッジ使用の場合はこの位置に合わせてください。

但し、MCカートリッジでも昇圧トランスを使っている場合はMMの位置に合わせてください。

### ⑰録音切換スイッチ

2▶1 } …… テープダビングをするときにこの位置にし  
1▶2 } …… ます。詳しくは5頁「テープダビングする  
場合」参照。

OFF…………録音およびダビングするとき以外はこの位(オフ)置にしておいてください。

PHONO…………レコードの音を録音するときこの位置に(フォノ)します。

TUNER…………放送を録音するときこの位置にします。  
(チューナー)  
DAD/AUX…………裏面DAD/AUX端子に接続した機器からの音(DAD/補助端子)を録音したい場合にこの位置にします。

### ⑱録音表示ランプ (A-817GTR)

# 操作のしかた

## ■演奏をはじめる前に

下記ツマミの位置を確認したのちパワーボタンを押してください。

スピーカースイッチは裏面スピーカ端子に接続したスピーカ位置「A」または「B」に。ミュートボタンは**■OFF**〔オフ〕に。インプットセクターボタンはPHONO〔フォノ〕に。モード切換スイッチはNORM〔ノーマル〕の位置に。ボリュームツマミは左いっぱいにまわし出力最小に。ラウドネススイッチは**■OFF**〔オフ〕の位置に、バスツマミ、トレブルツマミはDEFEAT〔ディフィート〕の位置で周波数特性フラットにしておいてください。パワーボタンを押し、しばらくするとパワーボタンがグリーンに点灯します。パワーボタンを押してもパワーボタンがグリーンに点灯するまでの間は、トランジェントキラータイムで音は出ません。

## ■レコード演奏をする場合

インプットセクターボタンをPHONO〔フォノ〕の位置に、フォノ切換スイッチ(A-817GTRをお使いの場合のみ)およびカートリッジ切換えスイッチをプレーヤー、カートリッジに合わせて切換え、ボリュームツマミをゆっくりまわしてレコード演奏の音が聞こえることを確認したのち音量、音質ツマミをお好みの位置にまわしてお聴きください。

## ■放送を聞く場合

インプットセクターボタンをTUNER〔チューナー〕にし、チューナーを操作して放送受信状態にしたのち、音量音質ツマミをお好みの位置にまわしてお聴きください。

## ■テープ演奏する場合

本機にはテープデッキを2台接続することができます。テープデッキをTAPE-1端子に接続している場合はインプットセクターボタンのTAPE-1ボタンを、TAPE-2端子に接続している場合はTAPE-2のボタンを押してデッキの再生操作を行ってください。

## ■録音する場合

録音切換スイッチで録音したいソースを選んでテープデッキの録音操作を行ってください。

3ヘッドのテープデッキを使って録音している場合は、本機のインプットセクターボタンを録音しているデッキの方へ(TAPE-1またはTAPE-2)切り換えますと録音された音がすぐに再生でき正確に録音されているかモニターすることができます。また、それ以外の位置にすれば録音をしながらレコードや放送を聴くことができます。

なお、録音レベルの調整はテープデッキ側で行ってください。

(注)本機はアンプ内でのノイズを少なくし、音質重視のため2アンプ構成となっています。このため録音中あるいはダビング中にバランスツマミやモードスイッチを動かしますと、録音する音が影響をうけますので録音中はモードスイッチやバランスツマミは動かさないようにしてください。

## ■テープダビングをする場合

2台のテープデッキを使ってすでに録音済みのテープから別のテープへ複写することをテープダビング(転写)と言います。本機でテープダビング操作は次のように行うことができます。

TAPE-1端子に接続されたテープデッキをA、TAPE-2端

子に接続されたテープデッキをBとしますと、

### 1. AからBへテープダビングする場合

録音切換スイッチを1▶2の位置にし、Aを再生状態にBを録音状態にします。

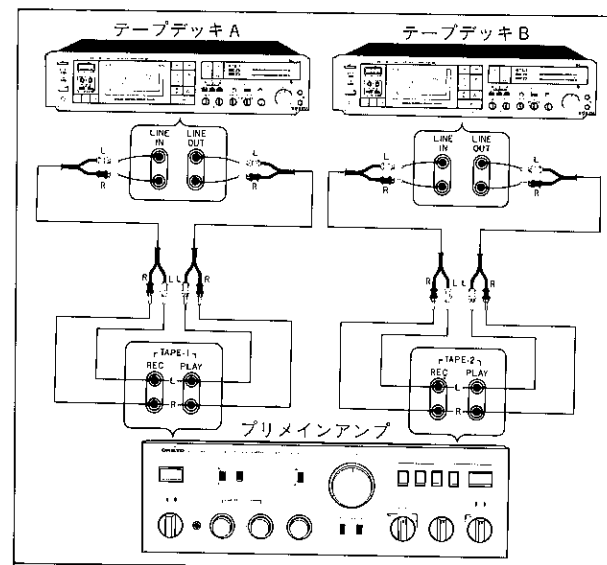
Bのテープデッキが3ヘッドの場合は録音状態をインプットセクターボタンでチェックできます。

TAPE-1の位置ではBへダビングされる前のテープデッキAの音が、TAPE-2の位置では録音しおえたばかりのテープデッキBの音がスピーカーから聞こえます。また、それ以外の位置にすればテープダビングをしながらレコードや放送を聴くことができます。

### 2. BからAへテープダビングする場合

録音切換スイッチを2▶1の位置にし、Bを再生状態にAを録音状態にします。

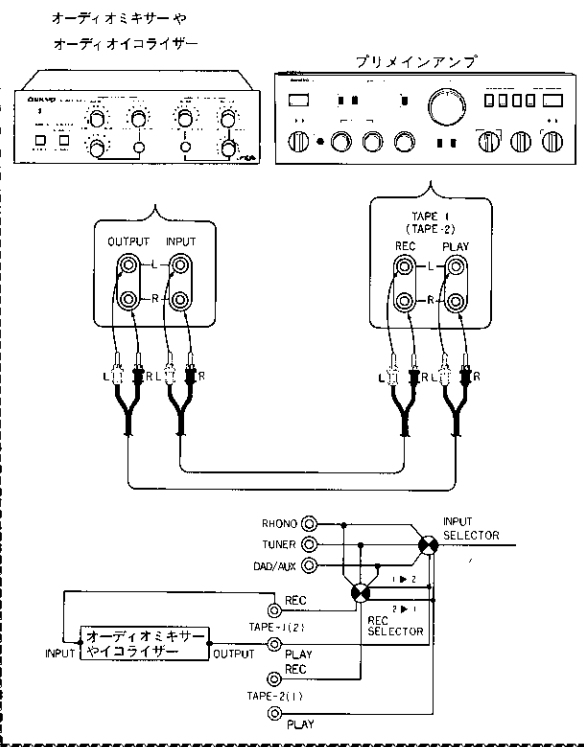
Aのテープデッキが3ヘッドの場合は上記と同じように録音状態をインプットセクターボタンでチェックできます。



# 定 格

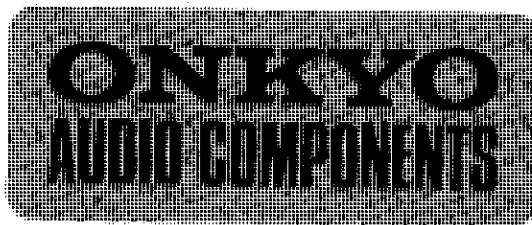
## オーディオミキサーやオーディオイコライザーを接続する場合

本機にオーディオミキサーを接続してマイクミキシングをしたり、オーディオイコライザーを接続する場合は下図のようにTAPE-1 (TAPE-2) 端子に接続し、インプットセレクターボタンをTAPE-1 (TAPE-2) へ、録音切換スイッチをミキシングやイコライザーするソースに合わせてください。テープデッキをミキシングしたりイコライザーする場合はDUBBING 2 ▶ 1 (DUBBING 1 ▶ 2) の位置にすればTAPE-2 (TAPE-1) に接続したテープレコーダーとミキシングやイコライザー再生ができます。



	A-817GTR	A-815GTR	
定格出力(20~20,000Hz)	AUX→SP OUT 8Ω 両CH駆動	80W+80W	60W+60W
全高調波歪率 (20~20,000Hz)	AUX→SPOUT 定格出力時	0.008%	0.008%
	AUX→SPOUT ½定格出力時	0.007%	0.007%
	PHONO(MM)→REC OUT 3V	0.003%	0.005%
	PHONO(MC)→REC OUT 3V	0.015%	0.02%
混変調歪率	AUX→SP OUT	0.008%	0.008%
パワーバンド幅	IHF-3dB T.H.D 0.2%	5Hz~100kHz	5Hz~100kHz
ダンピングファクター	1kHz 8Ω	100	100
周波数特性	PHONO→REC OUT(RIAA偏差)	20Hz~20kHz(±0.2dB)	20Hz~20kHz(±0.2dB)
	AUX→SP OUT	2Hz~100kHz(+0,-3dB)	2Hz~100kHz(+0,-3dB)
入力感度/インピーダンス	PHONO(MM)	2.9mV/47kΩ	2.9mV/47kΩ
	PHONO(HIGH MC)	2.9mV/100Ω	
	PHONO(MC)	280μV/330Ω	350μV/330Ω
	TUNER, AUX, TAPE PLAY	150mV/47kΩ	150mV/47kΩ
PHONO最大許容入力	MM, HIGH MC, 1kHz/10kHz 0.05%	250mV/1200mV	230mV/1100mV(MM)
	MC 1kHz/10kHz 0.05%	23mV/110mV	30mV/145mV
定格出力電圧/インピーダンス	TAPE REC1, 2	150mV/2.2kΩ	150mV/2.2kΩ
S/N比 (IHF-Aネットワーク 入カショート)	PHONO(MM)	87dB	83dB
	PHONO(MC)	72dB	67dB
	TUNER, AUX, TAPE PLAY	100dB	100dB
トーンコントロール (VOLUME-16dB)	BASS	±8dB at 70Hz	±8dB at 70Hz
	TREBLE	±8dB at 20kHz	±8dB at 20kHz
ラウドネス		6dB at 100Hz	6dB at 100Hz
フィルター	SUBSONIC	15Hz, 6dB/oct	15Hz, 6dB/oct
ミューティング		-20dB	-20dB
電源		AC100V 50/60Hz	
消費電力		135W	100W
ACアウトレット		SWITCHED2個(TOTAL200W) UNSWITCHED1個(200W)	
寸法		435(W)×142(H)×392(D)	435(W)×122(H)×392(D)
重量		11kg	9kg
付属品	取扱説明書、オンキヨーサービス網一覧、保証書		

※定格仕様は性能向上のため予告なく変更する場合があります。



**オンキョー株式会社** ■ 茨城県日新町2番1号 ☎572 ☎0720(33)5631 大代表  
■ 東京オーディオセンター ☎03(251)7160 ■ 大阪オーディオプラザ ☎06 (315)8330  
■ 東京サービスセンター ☎03(293)0196 ■ 大阪サービスセンター ☎0720(32)1616